



「町民歴史講座」9月講座のご案内 平成27年度文化遺産を活かした地域活性化事業

京都・聖護院門跡による山伏行列と護摩法要
長い年月を経て再開された伝統行事を「見学」
ください。

◆日時 平成27年9月8日(火) 12時～

◆場所 駅前多目的広場(島之内)道町～
深専寺(道町)

◆内容

12時～ 山伏行列(駅前多目的広場出発)

12時30分～13時30分 護摩法要(深専寺参道)

14時～ 山伏行列(深専寺出発)

◆サポート 湯浅町観光協会、
龍谷大学校友会海南有田支部

◆見学に関する問合せ

湯浅町歴史文化財活用実行委員会事務局
産業観光課 伝建推進室 ☎64・1128(直通)

聖護院門跡とは

『聖護院』と聞いて、みなさんは何を思い浮かべるでしょうか。例えば、京都のお土産の定番『八つ橋』、あるいは『聖護院大根』や『聖護院かぶ』といった京野菜。これらは、明治時代まで存在した『聖護院村』にちなむもので、その村の名前は『聖護院』という寺院の寺領であったことに由来します。

聖護院は、現在の京都市左京区聖護院中町にあり、平安神宮の北側に位置します。寛治4年(1090)、三井寺(園城寺)の僧・増善大僧正が、白河上皇の熊野御幸に際して、その先達(案内役)を勤めた功績によって上皇より賜ったお寺です。自然の山々を修行の道場とする修験道・山伏の総本山として、最盛期には全国に2万余の末寺を抱える勢力となりました。また、後白河天皇の皇子、静恵法親王が宮門跡として入られて以降、皇室や摂家から門跡を迎えてきた皇室と関係の深い寺院でもあります。(このようなお寺を『門跡寺院』といいます。)

聖護院では、今でも年中行事として、春には大阪・和歌山・奈良にまたがる葛城山脈での葛城修行、9月には世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」を構成する大峰山脈を縦走する大峰奥駈修行が行われています。

湯浅と聖護院とのかかわり

聖護院門跡の熊野・大峰への参拝には、熊野古道が利用されていたようです。聖護院の記録である「御入峰代々年代記」という文献の天保10年(1839)(9月12日の項)には、熊野本宮参拝の帰路に、門跡一行が湯浅村深専寺において昼食のもてなしを受けたことが記されています。

また、道町にある『立石』のそばにある小さな空地は、古

受け継がれる歴史的風致

この古くからの交流のお話を受けて、平成24年(2012)には、聖護院門跡による深専寺境内参道での護摩法要と、別所・勝楽寺から糸我峠を抜けて宮原までの熊野古道を歩く企画が開催されました。

今回は、聖護院の大峰奥駈修行の一行が帰路で湯浅に立ち寄り、山伏姿の行列が町内を歩き、途中、深専寺において護摩法要が行われるという、まさに文献に記された姿が繰り広げられます。

昔々の人々が見たのと同じ山伏たちの行列と護摩法要をぜひ「見学」いただいて、往時の湯浅に思いをはせてみてはいかがでしょうか。



平成24年の護摩法要の様子